

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873500593
法人名	有限会社 おきた建築
事業所名	グループホーム おきた
所在地	伊予郡砥部町原町370-1
自己評価作成日	平成25年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成25年9月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>管理者の地元で、職員も近所や町内の方が多く、開設当初より地域に密着しています。和風住宅を改装した造りのホームで、とても家庭的な雰囲気があります。食事は手作りを心掛け、ホームの畑で採れた野菜や、旬の食材で利用者様と一緒に調理し、とても好評です。医療面においても、日々の健康管理や観察を丁寧に行い。緊急時には早急な対応がとれる体制にあります。また、職員の離職も少なく、利用者様やご家族様と馴染みの関係が築けています。</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●法人代表者である管理者は、ご家族が話される悩みや困りごと等をゆっくり聞くようにされている。運営推進会議と行事を重ね行う場合には、ほとんどのご家族が来られ、ご家族同士の交流の場にもなっている。カラー写真を満載した事業所通信は、「日頃の生活がよく分かる」と喜ばれている。ご家族に、忌憚のない意見を言っていただけるよう、外部評価機関が年に一度発行している「家族アンケート」の文言を配布して、ヒントにさせていただけるような試みもなされている。</p> <p>●管理者は、行動力のある若い職員の外出支援への提案や経験豊富な職員からの利用者への言葉かけや対応についての意見等、職員個々の得意分野や経験を活かしながら、チームケアの充実に努めておられる。又、どの職員も同等のケアができるよう、毎月、勉強会を行ない、さらなるレベルアップに向けて学びを重ねておられ、今月のテーマは「職員倫理」となっている。</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. <b>家族の2/3くらい</b> 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○ 1. 毎日ある 2. <b>数日に1回程度ある</b> 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. <b>たまに</b> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○ 1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. <b>職員の2/3くらい</b> 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. <b>ほとんどいない</b>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. <b>家族等の2/3くらい</b> 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム おきた

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

沖田 るみ子

評価完了日

平成 25 年 9 月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 家庭的な雰囲気をととても大切にしている。理念はホーム内にも掲示し、ミーティング等でも再確認している。 (外部評価) 事業所では「私たちは、住み慣れた地域の中で家庭的な雰囲気のもと、その人らしさを大切にし、穏やかで安心した暮らしが継続できるようご家族とともに支援します」と理念をつくり、玄関や事業所の各所に掲示されている。2ヶ月ごとに発行する事業所通信に理念を記載しておられ、利用者やご家族、地域の方にも、理念を知っていただけるよう取り組まれている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 管理者、計画作成担当者も同じ地域に住んでおり地域との付き合いは自然に行えている。職員も町内の者が多い。利用者様も近隣の方が増え、ご家族様も町内の方が多く、地域に密着していると感じる。 (外部評価) 毎年恒例となっている「芋たき会」は、近隣の系列事業所と合同で行なっておられ、ご家族や近所の方も招き、今年は40人以上の方が参加された。来られなかった近所の一人暮らしの高齢者の方には、職員がご自宅まで届けられた。砥部町内の文化祭やカラオケ大会、地区の敬老会等にも、利用者が出かけられるよう支援されている。又、今年も例年のように小学校の運動会の得点版を彩るペーパーフラワーを作ったり、町内の一斉掃除の折には利用者も参加する等、地域とつながりながら生活できるよう取り組まれている。月に1回、水曜日の午後、レクリエーション時に地域のボランティアの方が来てくださっており、利用者は詩吟や大正琴等を習ったり聞いたりして楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域や、御近所の方の相談を受けたり、地域包括支援センター等へ繋げるなど、地域の方にも支援を行っている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
				運営推進会議では、様々なテーマで、事業所の取り組みを報告している。イベントの運営推進会議では普段出席されないご家族様にも多数参加いただくことができた。引き続き多数のご家族様が参加できるよう文書だけの案内ではなく、声掛けに工夫していきたい。	
			(外部評価)		
				年に6回開催する会議の内5回は系列事業所と合同で行ない、1回は事業所単独で行なうよう計画されている。合同で行なう会議の内3回は「お花見」「芋たき」「餅つき」を兼ねて行なっておられる。会議には、区長、町会議員、役場職員、近隣の方、ご家族等も出席されており、職員研修や自己評価、避難訓練の取り組みの報告を行い意見交換をされている。すべてのご家族に、会議内容を文書で知らせておられる。防災について話し合った際には、区長から砥部町の防災の現状を説明していただき、役場職員からは「防災担当の町職員が事業所に出向いて、防災食について等、防災研修も実施できる」との助言をいただいた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)		
				運営推進会議には出席していただき、何でも相談できる関係にある。	
			(外部評価)		
				事業所が所在する地域の周辺地区は、高齢化がすすんでおり、事業所では、気になるような高齢者がおられた場合は、地域包括支援センターへ知らせる等して連携されている。月に一度、介護相談員の訪問がある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)		
				ミーティング時に身体拘束に関する研修を実施している。職員は再度理解を深めることができ、身体拘束のないケアを実践できている。現在玄関の施錠は夜間のみとなっている。	
			(外部評価)		
				昼間は玄関を施錠せず、調査訪問日には網戸にされていた。事業所では、勉強会等の機会を捉えて、身体拘束をしないケアに向け話し合われており、先月は「スピーチロック」をテーマに挙げて「利用者が不快に思えば、それは虐待になる」「自分がされていやなことは言わない、しない」等、改めて共通理解を図られた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  高齢者虐待防止法についても研修を実施した。不適切なケアを放置せず、職員個々が気持ちに余裕をもって利用者様と接し、職員同士で声掛けが行えるよう努めたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  管理者や計画作成担当者は、権利擁護や成年後見制度について理解しており、相談があれば適切にアドバイスを行うことができる。職員は制度について理解できていない者が多い。制度について理解を深めるため勉強会のテーマに取り上げていきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  契約時には必ず、重要事項説明書を読み合わせし、説明を行っている。疑問点に関しても丁寧に説明し同意を得ている。また、分からない事はいつでも、連絡して下さいと伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  ご家族様には、意見や要望は遠慮なく伝えてほしいと、ケアプランの説明や運営推進会議の際には話している。また職員は、来訪された方と話す場面を持つよう心掛け、意見や不満や要望をくみ取るよう努めている。  (外部評価)  ご家族へは、来訪時や電話等、機会を捉えて利用者の日々の暮らしぶりを報告し、意見や要望を聞くようにされている。法人代表者である管理者は、ご家族が話される悩みや困りごと等をゆっくり聞くようにされている。運営推進会議と行事を重ね行う場合には、ほとんどのご家族が来られ、ご家族同士の交流の場にもなっている。カラー写真を満載した事業所通信は、「日頃の生活がよく分かる」と喜ばれている。ご家族に、忌憚のない意見を言うっていただけるよう、外部評価機関が年に一度発行している「家族アンケート」の文言を配布して、ヒントにさせていただけるような試みもなされている。	

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティングや、勤務中に話す事は多々あり、職員の意見や提案を聞いて、出来る事は反映させている。しかし不満や苦情は言い難い部分もあり、意見が出にくい場合もあるのではと思う。	
			(外部評価) 管理者は、行動力のある若い職員の外出支援への提案や経験豊富な職員からの利用者への言葉かけや対応についての意見等、職員個々の得意分野や経験を活かしながら、チームケアの充実に努めておられる。又、どの職員も同等のケアができるよう、毎月、勉強会を行ない、さらなるレベルアップに向けて学びを重ねておられ、今月のテーマは「職員倫理」となっている。今回の自己評価は、職員一人ひとりが日々のケアを振り返りながら、全項目について記入しケアマネジャーがまとめて作成された。管理者は、「職員の和」を大切にされており、ビアガーデンや忘年会等、職員の親睦を図る機会を作っておられる。9月の観月会では、勤務年数10年の職員に、永年の労をねぎらって記念品を贈呈されるようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員にとって働きやすい環境や、条件となるよう可能な事は努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 外部研修の案内は必ず職員に周知し、希望者はいつでも参加できる態勢にある。また、様々なテーマで所内研修を実施し職員のスキルアップを図っている。しかし今年度は、外部研修にあまり参加できなかった。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 管理者や計画作成担当者は、同業者と交流する機会は多々ある。デイサービスのレクに招かれる等の相互交流は行っている。しかし職員個々が情報交換や勉強会をする仕組みはない。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人が納得して入居できるよう、出来る限り努力している。入居前に面談をしたり、入居後多くかかわりを持ち、不安や要望を汲み取るようにしている。また入居前の生活をよく知り、安心して生活できるように努めているが、急な入居になる場合が多く十分ではない場合もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者や計画作成担当者は不安や困っている事、要望等は気軽に尋ねてほしいと常に伝えている。また職員も、ご家族様の不安や要望を引き出せるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族様、利用者様の希望や要望を聞き様々なサービスを選択できるよう一緒に考え対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側される側という意識ではなく、お互いが支えあえるような関係づくりに努め、日常生活の中で利用者様一人一人できる事を見つけ張り合いを持って生活できるよう支援している。しかし、職員の中には共同するという意識に欠ける者もあり、さらに意識付けて行きたい。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者様を共に支える為に、状態を報告したり、ご家族様にお願ひしたい事を頼む等、利用者様とご家族様の架け橋となり支え合う関係が築けるよう努力している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族様にも、馴染みの方にホームへ面会していただくようお願いしている。また、ご家族様以外のお客様の面会にも再度来訪していただけるよう声掛けや雰囲気作りを行っている。 (外部評価) 老人会の友人の来訪を楽しみにしている利用者や、ご自宅の近所の方が送迎して下さり、馴染みの美容院で毛染めをされる方もいる。系列グループホームに入居されているご主人と行き来できるよう支援されている。事業所の近くにある空き家になっている利用者のご自宅の庭をシルバー人材センターに依頼して、庭の手入れをしてもらえよう仲介をされたこともある。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員も一緒になり歌を歌ったり、会話を楽しんだりし、仲の良い利用者様同士で過ごす時間を設ける等している。また、日々変化する利用者様個々の気分や、感情を注意深く観察し、トラブルが生じないよう、職員が仲介的立場に入り、トラブルが生じそうな時は雰囲気を変えるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 管理者や計画作成担当者は、退居時に今後も相談に乗れる事を必ず告げている。 また他のサービスへ移行する際には、詳しい介護サマリーを作成し、しっかり申し送る事ができている。出来る限りのアフターフォローを行えている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者様のご意向や要望を日々のかかわりの中から把握するように努め、把握できた意向についてはミーティング等で検討し叶えられるよう努めている。 (外部評価) 入居時に、フェイスシートやアセスメントシートで生活歴等、利用者の全体像を把握し、日々の中で新たに得た情報は随時書き加えながら、2年ごとに作成し直されている。ゆっくり時間が取れる夜勤の時間帯に、職員が利用者の横に座ると、職員の手を握りながら「ありがとう」と言ってくれるような利用者もおられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時に利用者様、ご家族様よりアセスメントシートをもとに聞き取りを行い、これまでの生活歴を把握するよう努めている。また、担当ケアマネジャーや、関係機関からも情報を得るようにしている。入居後も日々の関わりの中から、これまでの暮らしの把握を行い、その人らしい生活が送れるよう努めている。把握した内容でホームでも継続可能な事は出来るだけ継続できるよう支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ミーティング時に利用者様ごとに話し合いを持ち、職員同士の情報交換に努めている。また受け持ち担当を決め、利用者様ごとに密な関係を築くよう努め、担当職員が責任をもって支援するようにしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ミーティング時に意見を出し合い、利用者様個々の生活に適したケア内容を盛り込み介護計画を作成している。評価、立案したプランは報告説明し意見をいただくようにしている。ご家族様の意向や要望の表出は少ない。</p> <p>(外部評価) 利用者、ご家族の要望等をもとに、職員の意見も反映して、介護計画を作成されている。日々の介護記録には、介護計画の実施状況について記録しておられ、毎月モニタリングを行い、3ヶ月ごとの計画見直しにつなげておられる。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個別ファイルに、日々の暮らしの様子や本人の言葉、行動等細かく記録している。バイタルサインや、排泄の状態、食事量、飲水量、清潔支援、ケアプランの実施状況等に関しても日々状況を記録している。また必要時には来訪された家族様に日々の記録を閲覧していただくこともある。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 通院介助や、入退院のお迎え、個別外出の支援、ご家族様への食事の提供等、様々なケースや状況に対し、常に柔軟な対応がとれるよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 利用可能な地域の社会資源は利用できている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 協力医療機関のみならず、希望される医療機関を受診できるよう常に支援している。協力医院からは、月1回の往診があり、密な連携がとれ、適切な医療が受けれている。	
			(外部評価) 現在、利用者全員のかかりつけ医は、協力医の医師となっている。看護職員は、2週間ごとに利用者の状態をFAXにて協力医に報告して連携を図っておられる。心療内科等、専門医の受診が必要な場合には、ご家族に納得いただけるよう、日々の介護記録等を見てもらっている。歯科等への通院は、ご家族の都合によっては、職員が通院支援されている。整形外科への通院は、病院の車が送り迎えしてくれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 職員は体調の変化や、バイタルサインの異常を見逃さないよう早期発見に努め、変化があれば、すぐに管理者や看護師に報告対処し健康管理に努めている。また、協力医療機関の訪問看護師とも連携がとれている。	
			(外部評価) 協力医療機関での入院中は主治医、病棟看護師、家族様と密に連絡を取り合い、早期に退院できるよう働きかけ、入院によるダメージを最小限にできるようしている。また、それ以外の病院入院に関してはご家族様と連絡を取り合い情報交換を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 協力医療機関での入院中は主治医、病棟看護師、家族様と密に連絡を取り合い、早期に退院できるよう働きかけ、入院によるダメージを最小限にできるようしている。また、それ以外の病院入院に関してはご家族様と連絡を取り合い情報交換を行っている。	
			(外部評価) 重度化や看取りに関して指針を定めている。利用者様ごとに状況を見ながら、ホームがどのような支援を行えるのか、その都度検討しながら実施している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化や看取りに関して指針を定めている。利用者様ごとに状況を見ながら、ホームがどのような支援を行えるのか、その都度検討しながら実施している。	利用者やご家族の希望があれば、ご自宅や住み慣れた事業所で最期まで「その人らしさを大切に暮らし」が継続できるよう、地域の医療機関の理解や協力を得られるよう事業所からの働きかけ等も重ねていかれてほしい。
			(外部評価) 協力医の協力が得られ事業所で最期まで過ごす予定となっている利用者の方がおられ、調査訪問時には、食堂で他の利用者と一緒に食事をされていた。職員は、利用者のタイミングやリズムに合わせて根気よく食事の介助をされていた。現在は、協力医の24時間対応が難しく、管理者は、入居時、ご家族に「最期まで事業所で過ごすことは難しい」とことを説明されるが、事業所で最期まで過ごしたいと希望されるご家族もおられるようだ。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 所内研修やミーティングで対応を話している。さらに、勉強会を重ね、実践力を身につけて、職員個々のレベルアップを図りたい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、4月と10月には消防に来ていただき、避難訓練を実施し、消火器や通報装置の使用方法を再確認している。また今年度は大規模災害の外部研修にも参加し、運営推進会議でもテーマで取り上げ、地区の防災に関する活動状況を知る事ができた。近隣の方へ災害時に協力が得られるよう働きかけも行っている。 (外部評価) 年2回、出火場所や時間帯、放火、類焼、地震後の出火等、場面をいろいろ想定して避難訓練を実施されている。利用者も水消火器の使い方を体験する等して参加されている。4月には「大規模災害対応マニュアル」を作成し、運営推進会議において、ご家族や地域の方にも周知された。さらに事業所が所在する地区には、高齢者の多いこともあり、「災害時に事業所がどんな役に立てるのか」と言うことを一緒に考えていきたいことも伝えられた。事業所では、スプリンクラーを整備し、水、米、防災食、カセットコンロ、紙おむつ等を備蓄されている。利用者の各居室には、防災ヘルメットを用意しておられた。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者様に対し常に敬意や尊敬の態度で接するようミーティングで常に話し合っている。親しみや、慣れから言葉がおごそかにならないよう気を付けたい。プライバシー保持に関しては責任ある取扱いの徹底が図れている。 (外部評価) 前回の外部評価後、利用者に対して「常に敬意を払った対応を心がけ、丁寧な言葉かけを行なう」ことを目標に掲げて、接遇に関する研修を重ねられており、管理者は「言葉遣いがよくなった」ことを感じておられた。職員は、利用者には苗字ではなく名前で「～さん」と、先ず声をかけ、一呼吸置いてから「～されますか」「おやつですよ」等、利用者一人ひとりに応じた言葉かけをするよう心がけておられる。女性利用者にも気兼ねなく晩酌を嗜んでいただけるよう普通の湯飲みにビールや梅酒を注ぐ等して配慮されている。階段には、昇降機が設置されているが、ご自身の足で上り下りされる利用者には、ご本人の意欲を尊重して、見守り支援をされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の関わりを通して、利用者様の希望や要望が言い易い環境作りに努めている。意思表示が困難な方は、表情や行動を見て読み取り対応している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の勤務の都合にあわせる場面も多くある。自分の時間を過ごせる方は、自由に個々のペースで過ごしてもらっているが、やむおえない状況も多々あり難しいことがあるが、利用者様1人1人がその人らしい生活がおくれるよう職員一丸となって取り組みたい。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみが整えられるよう日々支援している。一緒に衣料品を買いに行き、好みの洋服を購入する方もある。髪どめをつけたり、毛染めにお連れしたり、利用者様個々におしゃれを楽しむことができている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 畑で収穫した野菜や、購入した旬の食材を使い毎食手作りで家庭的な献立である。野菜の収穫や、調理の下ごしらえ、食後の片づけ等、利用者様個々の能力に応じたお手伝もしていただいている。利用者様の誕生日には好きなメニューを取り入れ食事でも楽しめるようにしている。 (外部評価) 調査訪問日には、菜園で採れた里芋やきゅうり、ずいき等が食卓を飾り、器や彩りも工夫されていた。テレビを消して食事をされており、職員は、秋刀魚を上手に召し上がる利用者、「魚がお好きな〇〇さんは、きれいに食べられますね」と声をかけておられた。お汁を残していた利用者の方には、職員自身でお碗を手を持ち、「おいしいですよ」と飲むまねをされると、利用者も真似て全量飲まれていた。食後には、食器洗いから食器棚への収納まで行なう利用者の姿が見られた。梅干や干し柿作り、又、おやつ作り等も利用者とともにできるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 脱水には特に気をつけ、1日の水分量が1200cc以上を目標に摂取していただいている。飲み物もお茶だけでなくバリエーション豊富な飲み物で楽しみあるものにしていく。 食事はバランスの良い野菜中心の献立にし、利用者様の食べる量や、好み、嫌いな物について把握するよう努めている。また、血液検査データなどからも、全身の栄養状態をチェックしている。利用者様個々の状況に合わせ、食事の形態も刻みやとろみをつける等、食べ易い工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のうがいや歯磨き(一人一人に応じた方法を用いて)義歯の洗浄、就寝前の口腔ケアは実施できている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 起床時、食事前、おやつ前、就寝前に、トイレへのさりげない声掛けを行っている。パットや紙パンツはこまめに交換し、不衛生にならないよう気をつけ、必要な方へは下半身シャワー、陰部洗浄等適宜行っている。日々の関わりから排泄パターンや、排便前のサインを見逃さず意識した排泄自立に向けた取り組みを更に行っていきたい。	
			(外部評価) トイレは、1階に2ヶ所、2階に1ヶ所設置されている。1階のトイレの一つは、車椅子を使用している方には空間の制限上使いにくいことから、ドアを外してロールスクリーンを付けておられた。職員は、利用者個々の羞恥心にも配慮しながら支援されている。居室にポータブルトイレは置かず、夜間でもトイレで排泄できるよう支援されている。頻尿がみられる場合には、泌尿科を受診する等、原因を把握した支援に努めておられる。トイレまでの道しるべとなるよう、トイレという表示に矢印を書いて貼っておられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分摂取に気をつけ、野菜の多い献立となるようにしている。個々の利用者様に合わせ、便秘解消の食材(果物や乳製品)を提供し便秘改善に向け働きかけている。また、緩下剤の効能を把握し、上手に利用しながら便秘にならないよう働きかけている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の回数や曜日は職員の勤務の都合に合わせている。一人一人の入浴に関しては、湯加減、長さ等は個人の好みに合わせ、会話を楽しんだり歌を歌う等楽しいバスタイムとなるよう支援している。	
			(外部評価) 夏場は週に3回、冬場は2回、午前中の入浴となっており、ひとりで入浴できる方は、自由に入浴できるよう支援されている。介護度が重度の方には、リフト浴を使って、湯船で温まることのできるよう支援されている。季節に応じて、ゆず湯等も楽しめるようだ。入浴を拒まれる利用者には、入浴につながるよう、声かけに工夫しながら支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者様個々の生活リズムや状況に応じて、自由に居室やソファで休まれたり、横になる等してくつろいでいただいている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れや誤薬がないよう、職員間で必ず確認し合うようにしている。お薬手帳や説明書は、いつでも確認できるようにしており、わからない事があればその都度調べ、薬の把握に努めている。薬効については症状の変化を確認しながら、随時主治医に報告相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者様個々にあったお手伝いや、出来る事を見つけ、日々していただいている(歌、日記、散歩、体操等)。さらに日々のかかわりから、出来そうな事をみつけて、ホーム内での気分転換や、楽しみ事をおこなえるよう努めたい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 町内会の行事やレク等に参加される方もおられるが、全員が希望する場所へは外出できていない。希望される場所としては自宅やお墓参り等、ご家族様の協力が必要な場所が多い。近隣へのお出かけは行えているが、億劫がられる利用者様が多い。介護度が重い利用者様に対しては外に出る支援がほとんど行えていない。	
			(外部評価) 近所の散歩や花見物、道の駅、砥部焼まつりに出かけたり、カラオケボックスに歌を歌いに行かれることもある。温泉の家族風呂に出かけて、職員も一緒にお湯に入り支援されたこともある。外出を嫌がられる利用者には、前もって伝えるのではなく、その日にお誘いすることで腰を上げられる方が多いようだ。外出の際には、近隣の介護経験のある方が、ボランティアで手伝ってくださっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者様個々の能力に応じて、支援している。少額ではあるが自分で管理している方も居られる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 携帯電話を持っている方もおられ自由に電話をかけている。ホームの電話も自由に利用され、出来ない方は職員がダイヤルプッシュし、会話を楽しんでいただいている。また、希望される利用者様は年賀状や手紙を書いたりできるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 和風住宅を改築しており、とても家庭的な雰囲気がある。玄関には常に花や、季節感のある飾り付けを行うよう工夫している。快適に生活していただけるよう日差しや温度管理、風通し等に気を配っている。</p> <p>(外部評価) 民家改修型の2階建ての事業所で、和風庭園には灯ろうや庭石が配置され、剪定された木々や季節の草花を利用者はデッキから眺めて楽しまれている。事業所の表札は、地元の砥部焼きを利用されており、玄関には職員が持参したススキやリンドウ、オミナエシ等が活かされていた。障子やふすま等をそのままに、利用者にとって馴染みのある空間となっている。午後には、テーブルに洗たくものを広げて、洗たくものたたみに精を出される利用者もおられた。ウッドデッキの屋根には、夏場はよしずを張って、日除けにされている。介護度が重度の方には、ウッドデッキで、外気浴をしたり、ティータムや輪投げ等のレクリエーションを楽しめるよう工夫されている。神棚には、利用者とともに正月や輪越しの際に参詣した神社のお札が祀ってあった。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 広い空間ではないが、リビングや食堂で自由に過ごすことができる。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家具の配置や、風通しの良い明るい部屋作りになるよう工夫している。ホームで撮影した写真も2か月に1回程度貼り換えたり、家族様からの花やぬいぐるみ、飾り物等でその人らしい部屋づくりをしている。</p> <p>(外部評価) 居室には、それぞれにテレビや時計を置いておられたり、又、お位牌やご主人の遺影等を持ち込まれている方もいる。カレンダーに訪問マッサージや入浴日等を記している方もいる。西日の当たる居室には、すだれが掛けられていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) バリアフリーのつくりではないが、手摺りを配置し、利用者様個々に、室内杖やシルバーカーを使用していただいたり、手引きで移動していただく等、安全に過ごせるよう配慮し、環境整備には迅速に対応している。</p>	